

令和 5 年度第 2 回中央区緑化推進委員会 議事概要

【開催日】

令和 6 年 3 月 22 日（金）

【出席者】

学識経験者：鈴木委員長、木下委員

区民・事業者代表：岸本委員、中島委員、吉山委員 区職員：浅沼委員、三留委員、早川委員

事務局：水とみどりの課

【配布資料】

- ・資料 1 緑の基本計画 前期（R 元～5 年度）の取組状況
- ・資料 2 令和 6 年度中央区緑化推進委員会について
- ・参考資料 令和 5 年度第 1 回中央区緑化推進委員会 議事概要

・緑の基本計画 前期（R 元～5 年度）の取組状況（資料-1）

	意見内容
鈴木委員長	・資料に記載のボランティア人数は登録されている人数ということでよい。また、ボランティア登録することによるメリットは何があるのか。 →（事務局）緑のアダプト制度に基づき登録をしてもらっており、保険に加入することができるほか、年に 1 度、ボランティア懇談会を開催し意見交換をしている。
中島委員	・ビルの建て替えなどに伴う屋上緑化の整備が進んできていると思うが、これらに対する表彰制度などはどのように考えているか。 →（事務局）屋上緑化については、グリーンインフラガイドラインをもとに、区のみならず区民や企業の方々に取り組みを広げていく。現在、事例を集めているところであるが、優良なものについては、今後 5 年間で表彰する制度を考えていきたい。 ・日本橋中学校の改築に伴う、浜町公園の樹木の扱いに関してテレビ番組に取り上げられることについて気がかりである。 →（事務局）浜町公園に日本橋中学校の仮校舎を整備することになるが、影響を受ける樹木については、全て苗圃に移植し再び戻す対応をとっており、議会や住民に周知しながら工事を進めている。
岸本委員	・月島地域は高層ビルの再開発が進んでおり風が強いエリアもあるが、最近、倒木などのニュースが取り上げられている中で、街路樹の植え方などを検討していただきたい。 ・月島地域のメインストリートである清澄通りに緑が感じられる景観であったり緑陰が確保されるとよい。 ・再開発から 30 年ほど経った佃地域において、佃公園などは利用頻度も高く素敵な公園となっている。勝どき・晴海地域においても再開発に伴って、そのような緑が整備されると良い。 →（事務局）月島地域では、朝潮運河沿いの公園整備が今後 5 年間も順次進んでいくほか、東京都や開発事業者などと一体的に緑の量を増やしていき、水辺の構想も踏まえ水辺と緑というキーワードをいかしていきたい。

	意見内容
吉山委員	・中央区は水辺には恵まれているが、まちの成り立ちからして緑の確保に関して東京の中で比較的厳しい状況にある一方で、着々と施策が進んでいると思う。開発の中においても、緑の確保は大前提になっているところもあり、事業者として協力して進めていきたい。
木下委員	・来年度の議題としても取り上げている緑の連携会議（仮称）の開催について、大切な施策だと考えている。現在のボランティア懇談会を発展させていくようなイメージであるのか。また、区全域を対象としたものか。 →（事務局）ボランティアの方以外にも、区内の緑に関わっている方は公開空地进行を管理している方々など大勢おり、その方々をつなぐような会議として、区全域を対象としたものを考えている。 ・個別の施策がそれぞれ進んでいると思うが、グリーンインフラチェックシートと緑化助成を連携して運用することや、緑の連携会議と公園の魅力向上に向けた官民連携の策定を連携させるなど、施策同士を組み合わせることで相乗効果を得られると思う。
早川委員	・この後見学する晴海五丁目において、4月に開校する晴海西小中学校では中階層にかなりの量の緑を取り入れている。また、客船ターミナルの跡地は将来的に緑が整備され、晴海ふ頭公園と晴海緑道公園がつながり、緑量が増える予定である。
鈴木委員長	・開発によって新住民が大きく増えるが、地元愛を育てるために水と緑の取り組みは誰しもが参加できるものであるため、利用していけるとよい。
中島委員	・みどりのふれあいマップに文化施設を組み合わせることで、より緑を楽しんでもいただけるものになるのではないかと。 →（事務局）中央区の歴史と文化を緑と水辺でつなげるようなマップをご意見をいただきながら今後考えていきたい。